

｜ 病院長挨拶 ｜



京都大学医学部附属病院 病院長
三嶋 理晃

京都大学医学部附属病院のガイダンス2014の発行にあたり、ご挨拶を申し上げます。

京大病院は1899年に開設され、本年で115年目を迎えます。開設当時は、内科・外科・耳鼻科・産婦人科・小児科・皮膚科・眼科の7科でしたが、その後発展を遂げ、現在では33科・1121床・職員約3,000人を有する特定機能病院に成長しました。

2004年に国立大学が法人化し、独力で経営責任を有することが明確化され、これに呼応して経営努力を続け、安定的な組織に脱皮いたしました。京大病院は、「患者中心の開かれた病院として、安全で質の高い医療を提供する」、「新しい医療の開発と実践を通して、社会に貢献する」、「専門家としての責任と使命を自覚し、人間性豊かな医療人を育成する」の実現を目標としてきました。この理念の実現に引き続き努力してまいります。

診療面では、「京大病院がんセンター」が順調に稼働しています。積貞棟1階では、各臓器で内科・外科・放射線科が合同してユニット外来を行い、外来化学療法がさらに充実しています。「臓器移植チーム」は、肝移植や肺移植などで多くの実績を上げています。また、「脳卒中診療部(SCU)」の活動は、地域医療連携充実のシンボルとしての機能を発揮しつつあります。「手術支援ロボット(da Vinci)」も順調に稼働して実績を上げております。「リウマチセンター」は、「全身の関節炎をきたす、関節リウマチ及びびリウマチ性疾患に関する集学的な治療、最先端の効率的な研究、組織だった教育を実践する」というミッションを実現しています。また、昨年度は「次世代型のハイブリッド手術室」を稼働させ、難治性の疾患の患者さんに対して安全性の高い、かつ低侵襲の治療を実現しました。

国際貢献の面では、ブータン王国保健省及びブータン医科大学との間で医療スタッフの交流等を定めた協定を締結し、2013年10

月からは京大病院の医師と看護師をブータン王国へ派遣して、現地で医療支援を行うとともにブータン王国の若手医師に対する教育も始めております。

教育面では、関連病院と連携して医学部教育と初期研修教育の整合性の確保、初期研修医の処遇改善、若い医師の関係病院間の円滑なローテーションの確立、医療スタッフのキャリアパスの形成などに力を注いでいます。自己の持つ技量を最大限駆使して患者さんの治療に全力を尽くす「Service」、実地臨床から真実を見出して新しい医学を創生する「Science」の両立、すなわち「ダブルS」を有することが医療人の希求条件であり、この理念で医療人を育てていきたいと思っております。

研究面では、2012年に臨床研究中核病院に指定され、昨年度には「臨床研究総合センター」を設置しました。これにより、これまで複数の施設で行われていた臨床研究を統合して効率的に研究を進める体制が構築されました。また、がん患者さんから生体試料や診療情報をいただいてストックする「がん生体試料バンク」も稼働を始めており、創薬や新しい治療法の研究を進めております。iPS細胞臨床開発部では、山中伸哉先生が所長を務めておられるiPS細胞研究所と引き続き連携し、iPS細胞を用いた再生医療の臨床治験の準備を進めています。

これらの事業を成し遂げるには、構成員全員が組織を愛し、心をひとつにして日々努力することが大切だと考えます。その点、京大病院は、超一流のスタッフ・職員から構成されており、各自の病院を愛する心は格別のものであります。2014年度以降も京大病院はさらなる飛躍を目指します。皆様におかれましては、今後共、ご支援・ご鞭撻の程、よろしく申し上げます。